

ALA-APA の図書館サポートスタッフ
資格証プログラムにおける
コンピテンシー・セットとその基盤調査

山 本 貴 子
大 城 善 盛
漢 那 憲 治
瀬 戸 口 誠

1. はじめに	53
2. 図書館サポートスタッフ資格証プログラムと コンピテンシー・セット	53
3. コンピテンシー・セット作成の 基盤となった調査	70
4. 考 察	83
5. 結 び	87

1. はじめに

我々共同研究チーム（山本貴子、大城善盛、漢那憲治、瀬戸口誠）は、「アメリカの公共図書館における専門職制度の総合的研究」のテーマの下に、既に「アメリカにおける図書館サポートスタッフの養成」⁽¹⁾と「アメリカにおける図書館サポートスタッフの動向」⁽²⁾のタイトルで、図書館サポートスタッフに関するこれまでの研究成果を発表した。「アメリカにおける図書館サポートスタッフの養成」では、ALA-APA の図書館サポートスタッフ資格証（Library Support Staff Certification、以下 LSSC）プログラムにも言及した。さらに、大谷大学真宗総合研究所2011年度一般研究において、アメリカで調査を行い「アメリカの公共図書館における専門職制度の総合的研究——専門職と非専門職の枠組み——」⁽³⁾を作成した。しかし、具体的な教育内容にまでは言及することができなかった。そこで、今回は、教育プログラムの科目とその内容、さらにその科目が成立するに至った基礎的調査とその後の展開も含めて、LSSC を詳しく見ていくことにする。

論の進め方としては、次章で図書館サポートスタッフ資格証プログラムとコンピテンシー・セットを概観し、3章でコンピテンシー・セット作成の基盤となった調査を概観する。そして、4章で若干の考察を試みる。

2. 図書館サポートスタッフ

資格証プログラムとコンピテンシー・セット

アメリカ合衆国（以下、アメリカ）では図書館で働く職員の大多数はサポートスタッフ（support staff：MLS や MLIS の修士号を保持していない

職員）で、2006年前後でも公共図書館で働く職員の約 3 分の 2、大学図書館（academic libraries）で働く職員の約 3 分の 1 がサポートスタッフであった。公共図書館と大学図書館で働くサポートスタッフを合計すると約15万人にも上⁽⁴⁾っていた。

ALA（American Library Association）とその関連組織である ALA-APA（American Library Association — Allied Professional Association）は、質の高い図書館サービスを展開するためには、それらサポートスタッフの教育・訓練と、その代償（裏付け）としての資格証が必要であると認識した。ALA-APA は、ALA の下部組織である図書館サポートスタッフ関連ラウンドテーブル（Library Support Staff Interests Round Table、以下 LSSIRT）と教育委員会（Committee on Education）に加えて、大学研究図書館協会（Association of College and Research Libraries、以下 ACRL）や公共図書館協会（Public Libraries Association、以下 PLA）等の 6 つの部会（division）からの示唆と同意を得て、2010年に図書館サポートスタッフ資格証（Library Support Staff Certification、以下 LSSC）プログラムを開発した。（なお、プログラムの開発・実践にあたっては、連邦政府機関である博物館・図書館サービス機構（Institute of Museum and Library Services：IMLS）から財政的援助を受けている）

ALA-APA は、プログラム受講者が LSSC を取得するためには、以下の科目を履修する必要があるとした。

〈必修科目〉

- * Foundations of Library Services（図書館サービスの基礎）
- * Communication and Teamwork（コミュニケーションとチームワーク）
- * Technology（技術）

〈選択必修〉(3科目選択)

- * Access Services (アクセス・サービス)
- * Adult Readers' Advisory Services (成人読者への相談サービス)
- * Cataloging and Classification (目録・分類)
- * Collections (資料収集)
- * Reference and Information Services (レファレンスと情報サービス)
- * Supervision and Management (監督と管理)
- * Youth Services (青少年サービス)

ALA-APA は、上記10科目を図書館サポートスタッフに必要な能力、すなわち、コンピテンシー・セット (competency sets) と称している。2012年現在、それら10科目のシラバス (コンピテンシー) は次のようになっている。それらは、以前の記述が不明もしくは重複等の問題が指摘され、複数回の修正が施された結果である。

*** 図書館サービスの基礎** (必須) (August, 2012)⁽⁵⁾

〈改訂コンピテンシー〉

これらのコンピテンシーは、図書館の使命と役割を理解する上で重要なものである。これらの能力は、倫理観、価値観、および図書館のガバナンス、図書館内のポジションのために必要な基礎知識を網羅している。

1. 図書館サポートスタッフ (LSS) は、コミュニティにおける図書館の使命と役割、そして一般的図書館の使命を認識している。
2. LSS は、「図書館権利宣言」、「ALA の倫理綱領」、情報の自由、図書館記録の守秘義務、およびプライバシーの問題の理解を含む専門職の倫理観や価値観を知っている。

3. LSS は、異なるタイプの図書館における LSS と他のスタッフの役割を知っている。
4. LSS は、図書館部門や機能分野における関係と責任を知っている。
5. LSS は、以下の基本原理を認識している。
 - ・ レファレンスおよび情報サービス。
 - ・ 相互貸借とコレクションの維持管理を含む貸出返却サービス。
 - ・ 現在の目録と分類のシステム。
 - ・ 資料購入とコレクション構築。
6. LSS は、図書館がより大規模な組織や自治体の構造内の位置付けも含めて、図書館が如何に管理され、財政化されているかを知っている。
7. LSS は、サービスを強化するために他の図書館と協力する価値を知っている。
8. LSS は、職能団体への関与を含め、現在の自分の知識や技能を維持すべく、すべての可能な手段を追求するための自らの責任を理解する。
9. LSS は、質の高い顧客サービスの基本的な原理を理解し、実践する。
10. LSS は、図書館の使命と、スタッフ、ボランティア、利用者、コミュニティへのサービスを推進し理解し合う。
11. LSS は、資源やサービスに対する利用者のニーズや嗜好の多様性を認識し対応する。
12. LSS は、政策や決定を支持する意志と能力があることを示し、例外が適切であるときを知っている。

*** コミュニケーションとチームワークコンピテンシー・セット (必須)**

⁽⁶⁾
(August, 2012)

〈改訂コンピテンシー〉

図書館サポートスタッフは、質の高い顧客サービスを提供するため、さまざまな状況で、図書館利用者、図書館職員などと効果的にコミュニケーションする必要がある。

1. 図書館サポートスタッフ（LSS）は、対人関係、利用者サービス、チームワーク、コミュニケーションの基本的な概念を知っている。
2. LSS は、言語、コミュニケーションの方法、および図書館利用者や同僚のニーズに基づいて、コミュニケーションする際に最も適切なメディアを採用する。
3. LSS は、前向きで生産的な方法で対立問題を解決し、そして何時そのような状況を上司に知らせるべきかの判断ができる。
4. LSS は、親しみやすさを高めるため、および情報を伝達するために、効果的なコミュニケーションスキルを理解し、使用する。
5. LSS は、利用者のニーズに関して常に認識し、また予測することで、積極的な利用者サービスを実践する。
6. LSS は、図書館利用者と積極的な交流を計るために、効果的な言語および非言語スキルを使用する。
7. LSS は、扱いが難しく公にしにくい情報を提供するツールを知り使用する。
8. LSS は、チームで効果的に参加し、合意した目標や目的を達成することにコミットし、丁重そして専門的にコミュニケーションし、チームの意思決定を支援する。
9. LSS は、同僚、上司、そして利用者からの建設的なフィードバックを求め、与え、そして受け入れる。

***技術コンピテンシー・セット (必須) (August, 2012)⁽⁷⁾**

〈改訂コンピテンシー〉

これらのコンピテンシーは、図書館業務に必要な技術についてのスキルと知識を扱う。このコンピテンシー・セットはまた、情報探索、アクセス、利用に関連のある技術と機器の使用について、利用者教育とアクセス提供の役割に対処する。

1. 図書館サポートスタッフ (LSS) は、図書館機能やサービスに応用される技術の一般的な傾向や進展を知っている。
2. LSS は、デジタル・リテラシーを含め、利用者に関連のある技術を紹介する図書館の役割や責任を知っている。
3. LSS は、データの信頼性や利用者活動の守秘義務を確保するための基本原理や最善の実践法を知っている。
4. LSS は、異なる利用者グループに対してそれぞれに適切な技術の利用に関するコンセプトや課題を知っている。
5. LSS は、新技術への適応に際して柔軟である。
6. LSS は、利用者が公の設備を使う際、インターネットに接続する際、図書館のアプリケーション・ソフトを使う際、そして遠隔地から図書館サービスにアクセスする際、利用者を手助けし、また訓練する。
7. LSS は、情報資源を創造・同定・検索・アクセスする際の技術の役割を知っており、適切な情報発見ツールを実演する。
8. LSS は、基本的な技術のトラブルを解決し、解決できないときには適切な人に委ねる。
9. LSS は、すべての利用者が技術へ平等にアクセスできるよう、基本的な支援技術にアクセスし、使用する。

*アクセスコンピテンシー・セット（選択科目）（August, 2012）⁽⁸⁾

〈改訂コンピテンシー〉

アクセス・サービスは、すべてのフォーマットの館内での利用や通常の貸出、指定資料や利用限定資料の特別貸出、協定を結んでいる図書館の利用者への直接貸出や遠隔貸出、ILL やドキュメント・デリバリーを含む。

1. 図書館サポートスタッフ（LSS）は、コレクションの伝統的および非伝統的な組織法のスキームを知っている。
2. LSS は、図書館資料の貸出、資源共有、指定制度、利用者サービスのための適当なプロセス、および技術や機器を利用し、管理する。
3. LSS は、指定制度、ドキュメント・デリバリー、ILL のような機能にアクセスする関連の著作権や原則を理解し、応用する。
4. LSS は、図書館サービスにおける利用者のプライバシーの原理、方針、手続きを理解し、応用する。
5. LSS は、図書館間における資源共有の方針や手続きを理解し、応用する。
6. LSS は、人、機器、コレクションの安全性の原理、方針、手続きを理解し、応用する。
7. LSS は、アクセス・サービスの方針や手続きを説明するための効果的なコミュニケーション技術を理解し、使う。
8. LSS は、すべての図書館利用者に対して心地よい雰囲気を感じてもらうための利用者サービスの戦略を理解し、応用する。
9. LSS は、緊急な状況やさまざまな状況にある人、さまざまなニーズを持っている人を手助けする。
10. LSS は、会計処理や記録管理を行う。
11. LSS は、書架への返却、移動、書架点検を行うことでコレクションを

維持する。

12. LSS は、貸出、資源共有のプロセスに関する問題を見つけ、解決する。

13. LSS は、コレクションとサービスに関するデータを収集し報告する際に手助けする。

*** 成人読者への相談サービス（選択科目）（August, 2012）⁽⁹⁾**

〈改訂コンピテンシー〉

近年、読者への相談サービスは、読書用図書を識別して図書館利用者を支援するということから、視聴のための資料を識別して利用者を支援するということに拡大してきた。

これらのサービスは、コレクションの促進と同様、利用者の興味や経験に一致するように、利用者へ潜在的に興味のあるタイトルを推薦することを含む。

1. 図書館サポートスタッフ（LSS）は、資料種別やジャンルごとのコレクションとその資料の排架位置を知っている。
2. LSS は、著者の知識、さまざまな小説のジャンル、現在人気のあるノンフィクションなどの知識を含め、人気があり、古典的な小説についての一般的な知識を持つ。
3. LSS は、クラシックとポピュラー音楽のための、基本的なレファレンスとレビュー用ツールを知っており使用する。
4. LSS は、映画のジャンルのための、基本的なレファレンスとレビュー用ツールを知っており使用する
5. LSS は、視覚、聴覚、または知的障害者に適したフォーマットと資料を知っている。
6. LSS は、現在および新規のソーシャルメディアサイトや技術を含む、

オンラインと印刷物の読者の相談ツールやレビュー用資源を知っており使用する。

7. LSS は、図書、映画、または他のメディアの筋書きを簡潔に記述することができる。
8. LSS は、読書資料、音楽、あるいは映像について、批評することなく推奨することができる。
9. SS は、印刷物、メディア、電子書籍、オンラインまたはその他の利用可能なフォーマットについて、利用者の好みの形式で特定のタイトルを見つけることにより、利用者の要求に応えコミュニケーションし、支援することができる。
10. LSS は、図書についての議論、夏の読書プログラム、映画やメディアプログラム、および必要に応じて地域社会のグループと協力するなど、図書館のコレクションに基づいたプログラムの推進、実施、開発を支援する。
11. LSS は、ジャンル、期間、サブタイトル、著者、作曲家、または監督による図書、録音資料、映画、Web サイトや新規メディアの表示や資料リストの編集を補佐する。
12. LSS は、リクエストされ貸し出された資料の動向に基づいて、コレクションへの追加を支援する。

* 目録・分類コンピテンシー・セット (選択科目) (August, 2012)⁽¹⁰⁾

〈改訂コンピテンシー〉

目録・分類作業をする図書館サポートスタッフは、図書館利用者が図書館における資料へのアクセスを支援する。彼らは、図書館の収集資料を識別するため、特定のアイテムを選択するため、ある図書館または他の図書館で、

一般的には図書館コレクションの知的・組織的一貫性を支援し、それらのアイテムを排架するため、複数の検索方法を有効に利用できるプロセスを補佐する。目録や分類は、高いレベルのコンピュータスキル、分類、目録および件名についての標準システムの知識を必要とする。この作業はまた、これらの基準を資料の多様なタイプに適用する能力を必要とする。

1. 図書館サポートスタッフ（LSS）は、目録と分類のための適切なプロセス、コンピュータ技術、機器を適用し管理する。
2. LSS は、書誌ユーティリティとフォーマット規格を含む、印刷版とオンライン版の両方の基本的な目録と分類ツールを知っており使用できる。
3. LSS は、目録記入を編集し選択し確認して、さまざまな形式でメタデータを生成するための標準的なメタデータ形式と目録規則の基本を知っている。
4. LSS は、コレクションの分類と組織化のスキームの基礎を知っており適用できる。
5. LSS は、典拠コントロールとその基本的な原理の価値を理解し、個人名、団体名、シリーズ名、および主題のための適切なアクセスポイントを識別し適用できる。
6. LSS は、サービスを強化するための、共同・分担目録作業の価値と優位性を説明できる。
7. LSS は、利用者が求めている資料を見つけることを助けるという、目録・分類の価値、目的を知っており説明できる。
8. LSS は、情報資源の作成、識別、検索およびアクセスにおける技術の役割を知っており、適切なメタデータの保存および検索ツールの機能を実証する。

*** 資料収集コンピテンシー・セット (選択科目) (October, 2012)⁽¹¹⁾**

〈改訂コンピテンシー〉

収集の職務に就く図書館サポートスタッフは、書架上やオンライン上で図書館資料を排架するプロセスを支援することにより、同僚や図書館利用者を支援する。

この業務には、出版者、販売店、予算と会計についての理解、問題の解決法、利用するための準備項目、および資料が十分利用された後の資料の保存・廃棄を含めて、この基本的な図書館業務に対する多くの側面の知識と能力が必要である。

1. 図書館サポートスタッフ (LSS) は、統合図書館システム、他の適切なオンラインツール、コレクション管理用データの使用法を知っている。
2. LSS は、コレクションの構築と運営の基本原則を知っている。
3. LSS は、すべてのタイプの図書館資料の選択、非選択、保存、および交換に関する意思決定を支援する。
4. LSS は、多種多様なコンテンツへのアクセスを利用者に提供する基本原則を知っており、プロセスに適切な手続きを適用することができる。
5. LSS は、複数の形式のコンテンツが生産され図書館に提供されるさまざまな方法を知っている。
6. LSS は、リソースシェアリングの協定の価値を理解し、コレクションの決定に適用することができる。
7. LSS は、コレクション構築を補佐するための標準的な評価資源を知っており使用できる。
8. LSS は、図書館資源の保護に関する基本的な実務と原則を知っている。
9. LSS は、図書館資源を間違いなく準備するための適切な方法やテクニ

ックを適用する。

10. LSS は、図書館のコレクションに関する方針を適用し、説明できる。

*** レファレンスと情報サービス（選択科目）** ⁽¹²⁾ (August, 2012)

〈改訂コンピテンシー〉

これらの資源がどこに存在していても図書館利用者はすべてのフォーマットでの情報へのアクセスを求めるので、これらのサービスは図書館利用者を支援している。

これらのコンピテンシーは、基本的な情報資源と利用者の情報探索行動や期待についての理解を必要とする。

1. 図書館サポートスタッフ（LSS）は、分野の長所や専門コレクションを含む、図書館の印刷・非印刷・デジタルコレクションの一般的領域を知っている。
2. LSS は、利用者のプライバシー、機密性、および著作権を含むレファレンス・サービスに関与し、法的・倫理的な問題を知っている。
3. LSS は、基本的な研究・レファレンス質問の支援と案内を行うため、印刷、非印刷、デジタル形式の基礎的なレファレンス・情報・コミュニティ資源を知っている。
4. LSS は、コレクションの分類と組織体系を知っている。
5. LSS は、基本的な検索方法、表示オプション、および図書館目録・Web サイト・およびその他の情報アクセスツールに関する専門用語を知っている。
6. LSS は、照会が必要な場合に、利用者が自分の情報ニーズを定義し決定するために援助する上で効果的なレファレンス・インタビューを行うことができる。

7. LSS は、デジタル・リテラシー・スキルを含む基本的な研究手法を用いて利用者に指示し、支援することができる。
8. LSS は、利用者が自分のニーズを満たすために最適な情報源を選択する上で援助し、また、検索された情報の出典、流通、品質を評価することができる。
9. LSS は、すべての形式の資料を識別し探索する方法を知っており、ローカルと非ローカル資源からそれらの資料にアクセスする際に利用者を支援する。

*** 監督と管理** (選択科目) (August, 2012)⁽¹³⁾

〈改訂コンピテンシー〉

図書館サポートスタッフは、多くの場合、監督と管理を含む地位にある。

これらのスタッフはまた、彼らの作業部門に固有のコンピテンシーを実証する必要がある可能性がある。

1. 図書館サポートスタッフ (LSS) は、雇用、図書館の方針、および手続きを規定する基本的な規制や法律、そしてそれらの方針が、どのように地域、州、連邦の法律や法令の影響を受けているかを知っている。
2. LSS は、スタッフの管理、監督、規律の基本原則を知っている。
3. LSS は、図書館スタッフの求人、雇用、訓練、評価、昇進に参加する。
4. LSS は、図書館戦略と優先事項を関連付けるスタッフのために、明確なパフォーマンスの予想を設定する。
5. LSS は、リーダーシップの基本原則を知っている。
6. LSS は、スタッフ教育の活動への参加を計画し、実施し、奨励する。
7. LSS は、明文化され承認された方針および手続きの価値や、方針と手続きの違いを知っており、レビューのための方針と手続きを展開する

ことができる。

8. LSS は、予算の基本的な目的と概念を知っており、図書館活動のための予算を要求し、守り、従うことができる。
9. LSS は、募金や助成の書き方の基本を知っており、図書館のプログラムを支援するための資金調達の提案を準備することができる。
10. LSS は、地域の人口統計、データ分析、ニーズに基づいた図書館サービスを計画し、これらのサービスを評価することができる。
11. LSS は、他の図書館、機関、団体とのパートナーシップを形成することの原則と価値を知っている。
12. LSS は、図書館とそのサービスにおけるマーケティングの原理を知っており、マーケティングプランを策定し実施することができる。
13. LSS は、図書館の現在および将来のニーズへの利益、リスク、および影響を慎重に検討した後、現実的な目標と測定可能な目標を開発する。
14. LSS は、職員と利用者との間に積極的な関係を構築するため、利用者指向の顧客サービスの概念を適用する。
15. LSS は、効果的かつ効率的に会合を運営し、その基本原則を知っている。
16. LSS は、効果的な意思決定の概念を知っており、必要に応じて意思決定を行うことができる。

*** 青少年サービスコンピテンシー・セット（選択科目）（August, 2012）⁽¹⁴⁾**

〈改訂コンピテンシー〉

これらの能力は、出生時から17歳までの青少年へのサービスに従事する、公共図書館で働いているサポートスタッフのためのものである。青少年へのサービスには、コレクション構築、プログラミング、読者の援助およびレフ

ァレンス・サービスの提供、情報リテラシーのスキル教育と関連する活動が含まれる。

1. 図書館サポートスタッフ（LSS）は、特別なニーズと多様なバックグラウンドを持つものを含めて、すべての青少年のニーズを満たすために、図書館の役割を理解する。
2. LSS は、幼年期と青年期の発達段階に関する一般的な理解と、すべての青少年のリテラシー能力を支援する戦略を持っている。
3. LSS は、賞の受賞者と古典を含む青少年のための印刷とデジタル図書館資源に精通し、青少年のコレクションへの資源の選択を支援する。
4. LSS は、読書レベル、興味、および成熟度レベルなどの要因に基づいて、特定の青少年のために適切な資料を選択する。
5. LSS は、青少年のための技術的応用と安全なナビゲーションの規則と、青少年に最良のインターネットサイトに精通している。
6. LSS は、図書館の青少年サービスに関して、未成年者の権利を含め、法的および政策課題を理解し説明することができる。
7. LSS は、図書館の利用を奨励するために顧客サービス戦略を理解し適用し、快適な雰囲気確立し、すべての青少年、両親、および他の保護者のための安全で快適な環境を維持する。
8. LSS は、青少年、両親や他の保護者、他の図書館職員、そして青少年奉仕団体の担当者と効果的にコミュニケーションする。
9. LSS は、図書館のプログラムやサービスを作成、推進、実行、および評価を援助する。
10. LSS は、学校やその他の機関と協力することの価値を理解し、地域社会の青少年に奉仕する。
11. LSS は、青少年にレファレンス・サービスを提供するための最善の行

動を理解し、応用し、必要に応じて図書館員に問い合わせる。

12. LSS は、図書館資料、資源、および機器の使用法を、青少年利用者の青少年に指示する。

以上、コンピテンシー・セット（10科目）のシラバスを記したが、ALA-APA はそれらの科目を自ら開講するのではなく、高等教育機関等に依頼する形を取っている。⁽¹⁵⁾ LSSC プログラムは図書館界から好評で、2012年現在、15の高等教育機関等が LSSC のための科目の提供者であり、⁽¹⁶⁾ 2012年現在、約311人が LSSC プログラムに登録している。⁽¹⁷⁾

さらに、ALA-APA は LSSC プログラムを拡大・展開させて、短期大学等の資格証プログラムや学位プログラムを調査し、上記のコンピテンシー・セットに相当する科目を開講していると判断した場合、LSSC プログラムに登録・履修しなくても、各短期大学等の資格証プログラムや学位プログラムを修了するだけで、LSSC を授与する仕組みを展開している。

2012年現在、ALA-APA からそのような資格のある機関と認定されている短期大学は、次の11機関である。⁽¹⁸⁾

- * College of DuPage, Illinois
- * Ivy Tech Community College, Indiana
- * Palomar College, California
- * Pasadena City College, California
- * Illinois Central College
- * Waubesa Community College, Illinois
- * Three Rivers Community College, Connecticut
- * NMSU-Dona Ana Community College, New Mexico
- * Central Carolina Community College, North Carolina

- * Highline Community College, Washington
- * Belmont College, Ohio

また、ALA-APA は、2012年現在、以下の 9 機関も認定校とすべく交渉中⁽¹⁹⁾（調査中）である。

- * City College of San Francisco, California
- * Fresno City College, California
- * Pueblo Community College, Colorado
- * Georgia Perimeter College
- * College of Lake County, Illinois
- * University of Maine at Augusta
- * Bluegrass Community College, Kentucky
- * Northampton Community College, Pennsylvania
- * Spokane Falls Community College, Washington

上記のように、LSSC プログラムはアメリカの図書館界、特に教育側（教育機関や受講者）から好評である。LSSC 取得者を受け入れる側、すなわち、就職先である図書館現場の反応を調べてみると、LSSC プログラムは図書館現場からも好評である。2012年現在、Idaho Commission for Libraries, Missouri State Library, New York State Library, State Library of Kansas, State Library of Louisiana, Washington State Library, Tennessee State Library and Archives, California State Library, Wyoming State Library の 9 つの州立図書館と Texas Library Association と Colorado Association of Libraries の 2 つの州レベルの図書館協会が LSSC プログラム受講者に奨学金を出している⁽²⁰⁾。また、テキサス A&M 大学（Texas A&M University）で

は次のような発表をしている。“Texas A&M University Libraries announced that they will award up to a 4 % salary increase to any library support staff who completes the Library Support Staff Certification (LSSC) Program.”⁽²¹⁾ このように、図書館現場でも LSSC プログラムを積極的に支持している姿が見られる。

ALA-APA の LSSC プログラムはアメリカの図書館界で広く好意的に受け入れられ、進捗状況は良好のようである。しかし、プログラムの内容であるコンピテンシー・セットは、どのように、そして何を根拠に作成されたか、に関してはあまり知られていない。LSSC プログラムの開発に研究者という立場から関わっているアプlegate (R. Applegate) が、コンピテンシー・セットは公共図書館と大学図書館で働く図書館職員を対象に調査した結果に基づいて作成された、という主旨のことを、*Library Trends* の vol. 59, no. 1/2 (Summer/Fall 2010) に記している。以下に、その調査結果を概観し、若干の考察を試みたい。

3. コンピテンシー・セット作成の基盤となった調査⁽²²⁾

ALA-APA の中に設けられたサポートスタッフ資格証プロジェクト (Library Support Staff Certification Project、以下 LSSCP) チームは、LSSIRT、ACRL、PLA、レファレンス・利用者サービス協会 (Reference and User Services Association) 等の協力を得て、サポートスタッフに必要だと推察されるコンピテンシー・セット案を作成した。そのコンピテンシー・セット案は、以下の12領域 (科目) であった。最初の3領域 (科目) は、すべてのサポートスタッフに必須の能力であり、残りの9領域 (科目) は機能別の能力で、必ずしもすべての能力を保持する必要がないと判断され

たものである。

〈必須領域〉

- * Teamwork
- * Foundations
- * Technology

〈機能別領域〉

- * Management-Supervision
- * Reference
- * Access services
- * Marketing
- * Youth services
- * Public programming
- * Cataloging (and acquisitions)
- * Readers advisory
- * Collection development

LSSCP チームは、2008年に公共図書館と大学図書館で働くすべての図書館職員を対象に、上記の12領域について E-メールによる調査を実施した。表1は、図書館の類型別と（職員の）職種別の回答数である。職種別の「その他」にある数字は、「LSS」（図書館サポートスタッフ）、「MLS」（MLSを有する専門職：館長を除く）、「館長」の他に、オプションで‘other’と設けた箇所に記入された数字である。表1から公共図書館と大学図書館の職員がほぼ均等に回答していることが分かる（表1を参照）。

調査においては、上記12の領域に関して、対象者に、「図書館サポートス

表 1 図書館種別・職種別の回答数

図書館の種類	LSS	MLS（専門職： 館長を除く）	館 長	その他	合 計
大学図書館	658	572	210	139	1579
公共図書館	438	560	298	230	1526
他の図書館	114	181	67	124	486
合 計	1210	1313	575	493	3591

典拠：Applegate, “Clarifying Jurisdiction in the Library Workforce: Tasks, Support Staff, and Professional Librarians,” *Library Trends*. Vol. 59, no. 1/2 (Summer/Fall 2010), p.288-314.

表 2 図書館種別・職種別による各領域の評価（平均値）

	公共図書館		大学図書館	
	LSS	MLS	LSS	MLS
Teamwork	2.71	2.67	2.70	2.64
Foundations	2.65	2.58	2.61	2.55
Technology	2.56	2.50	2.58	2.50
Management-Supervision	2.56	2.36	2.52	2.36
Reference	2.52	2.56	2.57	2.48
Access services	2.52	2.40	2.59	2.55
Marketing	2.48	2.29	2.57	2.21
Youth services	2.47	2.41		
Public programming	2.32	2.18	2.27	2.13
Cataloging (and acquisitions)	2.30	2.33	2.49	2.41
Readers advisory	2.28	2.20	2.07	1.89
Collection development	2.20	2.14	2.33	2.16

典拠：R. Applegate, “Clarifying Jurisdiction in the Library Workforce: Tasks, Support Staff, and Professional Librarians,” *Library Trends*. Vol. 59, no. 1/2 (Summer/Fall 2010), p.288-314.

タッフにとって、① not important, ② important, ③ very important」の3段階で評価してもらい、‘not important’を1、‘important’を2、‘very important’を3に数値化した。表1の「LSS」と「MLS」だけを対象に、図書館別・職種別に各領域の評価（平均値）を示したのが表2である。

表2で、‘Youth services’領域に少数ながら大学図書館の職員も答えているが、直接的には関係ないという理由で、その部分は空白になっている。アプルゲイトによると、全体的にどの領域も平均的に‘important’と‘very important’の間にあった。全領域の平均は2.42で、それらの12領域が図書館の現場から見てもサポートスタッフに必要なコンピテンシーであり、LSSCP チームの偏見・独断でないことが証明された。（なお、「図書館の現場」という場合、学校図書館や専門図書館も含まれるが、それらの2種類の図書館は特殊だという理由で、LSSC プログラムの対象外になっている）

しかし、調査の結果を見ると、公共図書館と大学図書館のLSSは、MLS保持者よりもより高く評価する傾向にあった。例えば、公共図書館においてLSSの平均的な評価は2.46であったが、MLS保持者の平均的な評価は2.39であった。また、大学図書館においてはLSSの平均的な評価は2.46であったが、MLS保持者の平均的な評価は2.35であった。すなわち、LSSは自分たちの業務（もしくは能力）をMLS保持者よりも高く評価する傾向にあった。アプルゲイトによると、そのような現象はどの職種においても起こることであり、極めてノーマルな結果であるという。

調査に際しては、上記12領域に対して、知識とスキルを含む166の質問項目が設定された。その中で、特に特徴的なことは以下に記述する通りである。アプルゲイトは、調査の方法を根拠に、2.5の数値を「平均値」、2.7以上の数値を「やや高い」もしくは「高い」、2.0-2.25の数値を「やや低い」、2.0

以下の数値を「低い」と判断している。この論稿でもアプルゲイトの判断に従い、そのような表現をしている。

以下の特徴の記述において、LSS と MLS 保持者が共に高く評価した場合、それは図書館サポートスタッフの業務（もしくは能力）として、両者が同じ認識を持っていることを示している。また、共に低く評価した場合、基本的にはそれは図書館サポートスタッフの業務（もしくは能力）ではない、と両者が認識していることを意味する。しかし、その場合、図書館の業務としては適当でないということを意味している可能性もある。他方、両者が異なる場合は、それは図書館サポートスタッフの業務（もしくは能力）としての認識に、両者間に相違があることを示している。

以下に、各領域（科目）の特徴を記す。

「Teamwork」領域（質問事項は20項目）

公共図書館と大学図書館の LSS と MLS 保持者の 4 者が、以下の 6 項目を高く評価した。（それらの 6 項目は極めて図書館サポートスタッフが有すべき能力という意）

- 1) 人間関係、利用者サービス、コミュニケーションに関する基本的なコンセプト。
- 2) 尊敬心、公平性、一貫性を持って利用者に接する。
- 3) 同僚、上司、利用者にフィードバックし、また、フィードバックを受け付けること。
- 4) 誤解を前向きに同定し解くこと。
- 5) 効率よく聞き、情報を正確、かつ相手が理解できるように伝達し、フィードバックも積極的に求めること。
- 6) 利用者に歓迎する気持ちや専門職的なマナーで接し、他の職員に肯

定的なカスタマー・サービスの見本を示すこと。

また、公共図書館の LSS は、以下の項目を特に高く評価した。

- 7) 方針や決定事項を支持することの重要性。

「Foundations」領域（質問事項は11項目）

公共図書館の LSS と MLS 保持者が、以下の 2 項目を高く評価した。

- 1) 職員、ボランティア、利用者、およびコミュニティに図書館の価値とサービスを伝達し、促進すること。
- 2) 利用者のニーズの多様性や、資源やサービスに対して好みの多様性が存在することを理解し、それ相応に応えること。

しかし、以下の項目に関しては、4 者が「やや低く」評価し、特に大学図書館の MLS 保持者は「低く」評価した。

- 3) 図書館がどのように管理され、財政はどうなっているか、また、組織や政府機構の中で図書館がどのような位置付けになっているかの理解。

「Technology」領域（質問事項は12項目）

公共図書館と大学図書館の LSS と MLS 保持者の 4 者が、以下の 4 項目を高く評価した。

- 1) 図書館応用ソフトウェアや生産ツールにアクセスするための基本的なコンピュータ操作。
- 2) 技術の変化に対応できる順応性。
- 3) 訓練から得た情報を職場で応用すること。
- 4) 蔵書目録、基本的図書館データベース、インターネットの検索エンジンを含む情報発見ツールを使えること。

さらに、大学図書館の LSS と MLS 保持者は、以下の項目を高く評価した。

- 5) Eメール、ワープロ、統計ソフトのような基本的なソフトウェアを使えること。

しかし、公共図書館と大学図書館の MLS 保持者は、以下の3項目をやや低く評価した。

- 6) 図書館機能やサービスに関係のある技術の開発。
- 7) assistive technology を含め、利用者に技術の応用の仕方を紹介する際の図書館の役割や責任性。
- 8) すべての利用者が技術へ平等にアクセスできるようにするために、基本的な assistive technology を使えること。

「Management-Supervision」領域（質問事項は20項目）

公共図書館と大学図書館の LSS が、以下の3項目をやや高く評価した。

- 1) 職員管理、監督、懲戒の原則。
- 2) チーム環境の中でリーダーシップを発揮すること。
- 3) 利用者中心のカスタマー・サービスのコンセプトを適用しながら、職員と利用者の間に肯定的な関係を築くこと。

さらに、大学図書館の LSS は、以下の項目を高く評価した。

- 4) 時間とストレスの管理スキルを利用して、肯定的な職場環境を奨励するような管理理論を実践に移すこと。

他方、公共図書館の LSS は、以下の項目を高く評価した。

- 5) 難しくて神経を使うような情報を伝達するために適切な戦略を採用しながら、方針と決定事項を支持すること。

しかし、次の項目は、公共図書館と大学図書館の LSS と MLS 保持者の4者によって、「やや低く」もしくは「低く」評価された。

- 6) 予算作成、助成申請書の作成、基金募集の基本的なコンセプトと目的的理解。

そして、公共図書館の LSS を除く 3 者が、以下の 2 項目を低く評価した。

- 7) コミュニティの人口状態やニーズに基づいて図書館サービスを計画することのメリット。
- 8) コミュニティや利用者の人口動態を同定し、その状況やニーズに基づいて図書館サービスを計画する際に手伝えること。

また、公共図書館と大学図書館の MLS 保持者は、以下の 2 項目を低く評価した。

- 9) 他の図書館、機関、および組織との協力や協働の原則やメリット。
- 10) 図書館運用のさまざまなデータの分析と解釈に基づく新サービスやプログラムを推薦し、実践すること。

以下の項目については、公共図書館の MLS 保持者だけが低く評価した。

- 11) 現在の方針や手続きをレビューし、新しい方針や手続きを開発すること。

「Reference」領域（質問事項は14項目）

公共図書館と大学図書館の LSS だけが、以下の項目を高く評価した。

- 1) 蔵書目録、Web サイト、他の情報へのアクセス・ツールの用語、検索法、ディスプレイ・オプションの理解。

公共図書館と大学図書館の MLS 保持者だけが、以下の項目を高く評価した。

- 2) レファレルが何時必要かの判断と、適切なレファレルの手続きをとること。

以下の項目は、公共図書館と大学図書館の LSS によって「やや低く」、両

図書館の MLS 保持者によって「低く」評価された。

- 3) 利用者が著作権方針を理解するよう手助けすること。

「Access Services」領域（質問事項は17項目）

公共図書館と大学図書館の LSS と MLS 保持者の 4 者が、以下の 2 項目を高く評価した。

- 1) 図書館資料の貸出手続き。
- 2) 質の高い利用者サービスを通じて図書館を代表すること。

大学図書館の MLS 保持者を除く 3 者が、以下の項目をやや高く評価した。

- 3) 利用者や環境の困難な状態を管理し、非常時のコントロールがでること。

以下の 3 項目は、公共図書館の LSS と MLS 保持者、大学図書館の MLS 保持者によって、「やや低く」もしくは「低く」評価された。

- 4) 指定図書、ドキュメント・デリバリー、ILL と関連する著作権問題。
- 5) コレクションやサービスに関するデータを集めたり、報告したりすること。
- 6) 資源共用のニーズを満たすために、最適な資源を選択するための方針や手続きを応用すること。

以下の 3 項目は、公共図書館の MLS 保持者だけがやや低く評価した。

- 7) 資源共用のための方針や手続きの理解。
- 8) 保存やリプレイスのための資料の同定。
- 9) 資源共用、指定図書、利用者サービスに必要な技術や設備の管理。

「Marketing」領域（質問事項は11項目）

公共図書館と大学図書館の LSS と MLS 保持者の 4 者が、以下の 2 項目を

高く評価した。

- 1) 効果的な伝達スキル、人間関係スキル、利用者サービス・スキルを発揮すること。
- 2) 図書館利用を推奨するために、またコミュニティの図書館サポートを推進するために、快適でユーザー・フレンドリーな環境を作ること。

以下の5項目は、公共図書館と大学図書館のLSSとMLS保持者の4者によって、「やや低く」もしくは「低く」評価された。

- 3) 図書館の利用者の同定や、サービスやコレクションを決定する際の手助け。
- 4) マーケティング計画を立て、その効果を評価する際の手助け。
- 5) 適切なメディア販路を同定し、良好関係を築くこと。
- 6) ターゲットとする利用者に、最も効果的なメディアを選定すること。
- 7) コミュニティの中でパートナーになりそうなグループを同定し、良好関係を築くこと。

「Youth Services」領域（質問事項は16項目）

この領域は公共図書館のLSSが対象で、0歳から17歳までの子供を対象としたサービスである。公共図書館のLSSとMLS保持者の両方が、以下の項目をやや高く評価した。

- 1) 快適な雰囲気を醸成し、図書館プログラムへの参加や資料の利用を大いに奨励すること。

しかし、以下の3項目は、公共図書館のLSSとMLS保持者の両者によって、やや低く評価された。

- 2) 児童・青少年の発達段階の理解。

- 3) 青少年利用と関連するアドボカシー、PR、ネットワーク技術。
- 4) 青少年と保護者へのサービスを開発し、マーケティングする際の手助け。

以下の3項目は、公共図書館のMLS保持者だけによって、やや低く評価された。

- 5) 青少年への図書館サービスに影響をおよぼす法的問題等。
- 6) 青少年のために資料を選択し、コレクションを構築する際の手助け。
- 7) 青少年へサービスする学校や他の地域の機関の人々と協力して働くこと。

「Public programming」領域（質問事項は6項目）

公共図書館と大学図書館のLSSとMLS保持者の4者によって、以下の2項目は「やや低く」もしくは「低く」評価された。

- 1) 展示に関する博物館学理論の理解とその応用。
- 2) プログラムまたは展示の効果の評価。

以下の項目は、公共図書館のMLS保持者によって「やや低く」、大学図書館のMLS保持者によって「低く」評価された。

- 3) プログラムまたは展示を効果的に計画し、実践すること。

「Cataloging (and acquisitions)」領域（質問事項は17項目）

大学図書館のMLS保持者は、以下の2項目をやや高く評価した。

- 1) 図書館の統合システムの目録作成機能を使用すること。
- 2) 精査・編集して、基本的なコピー・カタログングができること。

しかし、以下の4項目は、公共図書館と大学図書館のLSSとMLS保持者の4者によって、「やや低く」もしくは「低く」評価された。

- 3) メタデータについての基本的なコンセプト。
- 4) 基本的なメタデータの仕組みの応用。
- 5) 予算的な側面からの監視。
- 6) コレクション構築のための標準的なツールの利用。

さらに、公共図書館の LSS と MLS 保持者によって、以下の項目は低く評価された。

- 7) 出版産業の基本的な組織や、資料や備品等の販売業者についての知識。

「Readers advisory」領域（質問事項は13項目）

公共図書館と大学図書館の LSS と MLS 保持者の 4 者によって、以下の 7 項目が「やや低く」もしくは「低く」評価された。

- 1) 著者名も含めた、大衆小説または古典的な小説についてのアドバイス。
- 2) 演奏者や作曲家も含めた、大衆音楽または古典的な音楽についてのアドバイス。
- 3) 監督や俳優も含めた、さまざまな映画についてのアドバイス。
- 4) 小説、映画や他のメディアについて短く、かつ十分に説明すること。
- 5) 読書討論会、夏季読書プログラム、映画鑑賞会等、図書館のコレクションに基づいたプログラムの開発、および実践の際の手伝い。
- 6) 図書館のコレクションの中にある資料のレビューを書くこと。
- 7) 様式、年代、主題もしくは著者、作曲家、監督別による本、レコード、もしくは映画のリストの作成、および展示。

「Collection development」領域（質問事項は 9 項目）

全9項目のいずれも、公共図書館と大学図書館のLSSとMLS保持者の4者によって、高い評価は得られなかった。そして、公共図書館のLSSとMLS保持者の両者が、以下の7項目を低く評価した。

- 1) 図書館におけるコレクション構築と管理の一般的な目的、およびコンソーシアムのメリットの理解。
- 2) 一般的な選択、非選択の基準の理解。
- 3) 寄贈の受け入れ方針の理解。
- 4) 資料の保有、再製本、廃棄、保管、保存の際の標準的な手法の採用。
- 5) さまざまなフォーマットの資料の基本的な補修能力。
- 6) 図書館資料の収集、貸出、廃棄の手続きに対する提言。
- 7) 標準的な保存技術を利用してのコレクションの維持。

以上が、12領域に対して知識とスキルを含む166の質問項目を分析した結果、特徴として表れた項目である。アブルゲイトは、調査結果を以下のようにならまとめている。

- (1) (理論的側面)：基盤となる知識や理論的原理に関連する項目（領域）において、調査対象者、特にMLS保持者が低く、すなわち、図書館サポートスタッフに要求されない項目（領域）と認識する傾向にあった。
- (2) (管理的側面)：予算編成、基金募集、監督、支出調整の理論および実践において、LSSとMLS保持者の両者が低く評価する傾向にあった。また、分析と評価が伴う「計画」も低く評価する傾向にあった。
- (3) (サポート的側面)：ライブラリアン（MLS保持者）をサポートするという項目（領域）において、MLS保持者（特に大学図書館）は高く評価したが、LSSはそうには評価しない傾向にあった。

- (4)（目録作成）：目録作成関連の5項目（約30%）において、LSSがMLS保持者より低く評価した。公共図書館だけに限ると、11項目（約65%）では、LSSがMLS保持者より低く評価した。
- (5)（技術）：技術関連領域では、大学図書館においては3項目（25%）、公共図書館においては5項目（約42%）について、LSSがMLS保持者より低く評価した。

LSSCP チームは調査結果を分析し、‘Marketing’と‘Public programming’を独立科目とするメリットは低いと判断し、削除した。そして、‘Marketing’で重要な部分を‘Management-Supervision’やその他に含めることにした。残りの10領域に対しては、各領域の専門家の意見を聞いた。そして、専門家の意見を反映させる形で、上記のシラバスが作成された。

4. 考 察

2章でLSSCプログラムとコンピテンシー・セットについて解釈し、3章でコンピテンシー・セット作成の基盤となった調査を概観した。この章では、それらに関して考察を試みる。

最初にLSSCプログラムについて考察すると、2章で概観したように、プログラム開始以来、アメリカの図書館界（教育する機関、教育を受ける者、修了者を受け入れる図書館の3者）で好評であり、図書館サポートスタッフの一つの養成法として成功していると言える。

専門職ライブラリアンの養成については、LSSCプログラムのように個人への資格付与ではなく、養成機関の認定（accreditation）である。このように、アメリカでは図書館サポートスタッフと専門職ライブラリアンの養成法

は異なるが、そのことに関しては、アメリカの図書館界では疑問は呈されていない。僅かにカナダの図書館サポートスタッフの養成法の改善を探っている図書館サポートスタッフ養成の教授 Christina Neigel が、アメリカの LSSC プログラムを批判し、カナダでは専門職ライブラリアンの養成法と同じく、養成機関を認定すべきであると論じているだけである。⁽²³⁾

内容的なものではなく、プログラムの運用方法、すなわち受講者に受講料 350ドルを課すことに対する疑問は、*Library Journal* に掲載されている。その記事は、医師や法曹の世界では専門職は継続学習を義務付けられていて、そのクレジットを継続教育プログラムで教えることで得ることができる、図書館界でも大会や会議等で専門職ライブラリアンが無料で図書館サポートスタッフに教え（教育し）、それを継続学習のクレジットにすべきだ、と論じている。⁽²⁴⁾ その場合の問題点としては、2012年現在、アメリカでは専門職ライブラリアンは（全米レベル、もしくは ALA レベルでは）継続学習を義務付けられていない、すなわち、更新という制度はないということである。ALA によれば、ALA の認定に合格したライブラリー・スクールから修士号（MLIS）を取得した人は、永久に専門職ライブラリアンの資格を有することになっている。（なお、LSSC は 4 年間有効で、4 年ごとに更新しなければならない）

LSSC プログラムのコンピテンシー・セットについて考察すると、まずこのセットは LSSCP チームにより独断的に作成されたものではなく、公共図書館と大学図書館で働くすべての図書館職員（LSS と MLS 保持者の意）対象の調査結果に基づいている。調査方法に関してアブルゲイトは、この調査は厳密な研究という視点からは課題があると論じているが、LSS や MLS 保持者を含めて可能な限りの多くの職員の考え方を知る上では有効な方法であり、特に問題にする必要はないと思われる。例えば、アイゼンバーグ (M.

B. Eisenberg) 等の情報リテラシー調査でも同じ手法が採用されている。⁽²⁵⁾

調査の結果は LSS と MLS 保持者の間では認識の相違があり、最終的に作成されたコンピテンシー・セットは調査対象になった図書館職員の考え方をそのまま反映させたものではなく、LSSCP チームによって調査結果が細かく分析され、その結果作成されたものである。しかし、そのコンピテンシー・セットは説得力があり、図書館界でも広く受け入れられているように思われる。

2009年に、教育委員会（Committee on Education）によって専門職ライブラリアンのコンピテンシー・セット（Core Competences of Librarianship）⁽²⁶⁾が作成され、ALA 理事会（ALA Council）の認可が下りた。その内容は以下の8領域である。

1. Foundations of the Profession
2. Information Resources
3. Organization of Recorded Knowledge and Information
4. Technological Knowledge and Skills
5. Reference and User Services
6. Research
7. Continuing Education and Lifelong Learning
8. Administration and Management

「2. 図書館サポートスタッフ資格証プログラムとコンピテンシー・セット」にある10科目のシラバス（コンピテンシー・セット）は、専門職ライブラリアンのコンピテンシー・セットと理解してもおかしくないくらいの深い内容になっている。しかし、専門職ライブラリアンのコンピテンシー・セッ

ト (Core Competences of Librarianship) と比較したアプルゲイトは、次のような 4 つの相違点があるという。

第 1 の相違点：図書館サポートスタッフに要求されているのは、3 つの必須領域 (科目) と選択必須の 3 領域 (科目) であるのに対し、専門職ライブラリアンは上記の 8 領域すべてにおける理解やスキルが要求されていること。

第 2 の相違点：図書館サポートスタッフのコンピテンシー・セットには、“History” と “Research” の領域がなく、また、“Lifelong learning of patrons” の概念がないこと。

第 3 の相違点：図書館サポートスタッフに要求されている能力は、専門職ライブラリアンに要求されている能力と比較して、より具体的であること。例えば、図書館サポートスタッフのコンピテンシー・セットには、“LSS will know” や “LSS will be able to” の表現が多い。

第 4 の相違点：2 番目の相違点とも関連するが、図書館サポートスタッフに要求されている能力として “Access Services” 領域 (科目) があること。専門職ライブラリアンのコンピテンシー・セットにはそのような領域はなく、⁽²⁷⁾ “Information Resources” の中に似たような能力が散見されるだけである。

以上がアプルゲイトの比較である。アプルゲイトが指摘していない領域として、‘communication and teamwork’ 領域がある。その領域は図書館サポートスタッフのコンピテンシー・セットの中で必須領域とされているが、専門職ライブラリアンのコンピテンシー・セットでは ‘Foundations of the Profession’ の中に、‘Effective communication techniques (verbal and written)’ という表現が入っているのみである。‘communication and teamwork’ 領域はまさに図書館サポートスタッフのためのコンピテンシーのように⁽²⁸⁾推察される。

両コンピテンシー・セットの領域 (科目名) だけを見ると、その両者には

同じ、もしくは類似した領域（科目名）があり、その相違を認識することは難しい。しかし、アブルゲイトの比較を読むと、両者には明確な相違があることが分かる。本来、この両者のコンピテンシー・セットは誰が読んでも容易にその相違が理解できるような文章にすべきであったと思われる。

最後に、わが国の司書課程と比較して考察する。図書館法施行規則が改訂されて、わが国の司書は従来の講習型ではなく、基本的に大学の司書課程で養成されることになった。そして、今後（2012年以降）、これからの図書館の在り方検討協力者会議の「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について（報告）」（2009年）に記されているようなカリキュラムと科目内容で養成されることになった。⁽²⁹⁾「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について（報告）」の中にはコンピテンシー・セットは見つからないが、科目と講義概要（要項）から推測し、それを上記のアメリカの図書館サポートスタッフのコンピテンシー・セットと比較すると、図書館サポートスタッフに要求されているのは、3つの必須領域（科目）と選択必須の3領域（科目）であるのに対し、わが国の司書に要求されているのは最低12科目、24単位の履修である。わが国の司書は幅広い知識とスキルが要求されていると言える。しかし、元々、司書課程とは司書養成の基礎的教育と位置付けられていることでもあり、深さという点では、あまり相違が見られない。すなわち、わが国の司書課程は、アメリカの図書館サポートスタッフの養成と同じレベルの教育を行っている可能性がある。

5. 結 び

上述したように、本研究チームでは、数年間にわたって図書館サポートス

タッフの歴史、背景、現状などを調査・研究している。その一環として、本稿では、図書館サポートスタッフ資格証について、2章でそのプログラムとコンピテンシー・セットを、3章でその基盤調査を分析した。ALA-APA のシラバスと、その基盤となる調査との関係については上述したとおりである。

本研究チームの最終目標は、これらの研究成果が、わが国の図書館職員の養成を考える上で、何らかの有効なポイントの一つとなることである。その点から本研究との関連を述べると、これも「4. 考察」のように、わが国の司書課程のレベルは、アメリカでの図書館サポートスタッフと同様ではないかと考えられる。

一方、アメリカでの LSSC では、「4. 考察」のように更新制度が用意されているが、わが国では「上級司書」が始まったばかりであり、しかもこれは一度だけのものである。

今後、わが国とアメリカとの教育内容がどのように相違しているか、具体的に分析するためには、アメリカで実際に行われている授業内容を調査する必要がある。使用されているテキストその他の教材と各機関で作られているシラバスをもとに、各科目の内容を分析することも必要だと考えられる。

註

- (1) 「アメリカにおける図書館サポートスタッフの養成」山本貴子、大城善盛、瀬戸口誠、漢那憲治、大谷大学研究年報。第63集、p.111-152、2011年。
- (2) 「アメリカにおける図書館サポートスタッフの動向」山本貴子、大城善盛、漢那憲治、瀬戸口誠、大谷学報。第90巻第2号、p.1-23、2011年。
- (3) 「アメリカの公共図書館における専門職制度の総合的研究——専門職と非専門職の枠組み——」山本貴子、大谷大学真宗総合研究所研究紀要。第29号、p. 89-106、2012年。

- (4) ALA-APA, Recognizing Value — Encouraging Growth. The National Library Support Staff Certification Program. <<http://ala-apa.org/lssc/files/2010/03/Grant2IMLSNarrative.pdf>>
- (5) ALA-APA, Foundations of Library Services. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/foundations-of-library-services/>>
- (6) ALA-APA, Communication and Teamwork. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/communication-and-teamwork/>>
- (7) ALA-APA, Technology. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/technology/>>
- (8) ALA-APA, Access Services. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/access-services/>>
- (9) ALA-APA, Adult Readers' Advisory Services. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/adult-readers%e2%80%99advisory-services/>>
- (10) ALA-APA, Cataloging and Classification. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/cataloging-and-classification/>>
- (11) ALA-APA, Collections. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/collection-management/>>
- (12) ALA-APA, Reference and Information Services. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/reference-and-information-services/>>
- (13) ALA-APA, Supervision and Management. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/supervision-and-management/>>
- (14) ALA-APA, Youth Services. <<http://ala-apa.org/lssc/for-candidates/competency-sets/youth-services/>>
- (15) ALA の図書館サポートスタッフ資格証プログラムに関しては、次の文献も参照。山本貴子ほか「アメリカにおける図書館サポートスタッフの養成」。
- (16) ALA-APA, Library Support Staff Certification: Approved Course Catalog. <<http://ala-apa.org/lssc/approved-courses/>>
- (17) L. R. Swader, ALA-APA Director's Report. <<http://ala-apa.org/about-ala-apa/governing-documents/board-and-council-documents/>>
- (18) ALA-APA, Library Support Staff Certification: LTA Program Recognition Project. <<http://ala-apa.org/lssc/lta-program-recognition-project/>>

- (19) *ibid.*
- (20) ALA-APA, Library Support Staff Certification: A New Round of Library Support Staff Certification Registration Assistance Awards Offered by LSSIRT and Ten States. <http://ala-apa.org/lssc/2012/03/30/a-new-round-of-library-support-staff-certification-registration-assistance-awards-offered-by-lssirt-and-ten-states/>; Washington State Library, *Between the Lines*, op. cit.; Colorado Association of Libraries, *CAL Newsletter*. Vol. 12, issue 1, April/May 2012. <http://www.cal-webs.org/files/51830495.pdf>
- (21) ALA-APA, LSSC Breaking News - ALA-APA. [DOC]. ala-apa.org/.../2011-2012APABD12_13_Breaking
- (22) 以下の典拠は、特に注がない限り、R. Applegate, "Clarifying Jurisdiction in the Library Workforce: Tasks, Support Staff, and Professional Librarians," *Library Trends*. Vol. 59, no. 1/2 (Summer/Fall 2010), p. 288-314 に基づいている。
- (23) C. Neigel, *Accreditation for Library and Information Technology Programs in Canada: A Proposal*. 2011. <http://www.ufv.ca/Assets/Library+and+Information+Technology/Accreditation+for+Library+and+Information+Technology+Programs+in+Canada.pdf>
- (24) F. Fialkoff, "Credits for Free," *Library Journal*. Aug. 15, 2010. http://www.libraryjournal.com/lj/communityopinion/885869-274/credits_for_free.html.csp
- (25) ここで、アイゼンバーグ等は、アメリカ国内の地理上の区域別に、異なる大学・短期大学を対象とした横断的調査を行なった。M. B. Eisenberg, *Project Information Literacy*. <http://projectinfolit.org/>
- (26) American Library Association, <http://www.ala.org/educationcareers/sites/ala.org/educationcareers/files/content/careers/corecomp/corecompetences/finalcorecompstat09.pdf>
- (27) R. Applegate, "Clarifying Jurisdiction in the Library Workforce: Tasks, Support Staff, and Professional Librarians," op. cit.; R. Applegate, *LSS Compared to MLS Competencies*. http://ala-apa.org/lssc/about-lssc/research/files/2010/03/lss_vs_mlscompetencies.pdf

- (28) しかし、オーストラリア図書館情報協会 (Australian Library and Information Association) が図書館情報専門職員に要求するコンピテンシー・セットには、「核となる知識とスキル」(core knowledge and skills) と「一般的な能力」(general attributes) の2分野があり、「一般的な能力」の中に、「効果的なコミュニケーション・スキル」と「効果的なチーム関係の構築スキル」が入っている。参照: Australian Library and Information Association, The Library and Information Sector: Core Knowledge, Skills and Attributes. [〈http://www.alia.org.au/policies/core.knowledge.html〉](http://www.alia.org.au/policies/core.knowledge.html)
- (29) これからの図書館の在り方検討協力者会議「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について (報告)」2009。 [〈http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331_2.pdf〉](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331_2.pdf)

〈キーワード〉 アメリカ図書館協会、図書館サポートスタッフ、
資格証プロジェクト